

# パフォーマンスハイライト

## 2018年3月期 業績のポイント

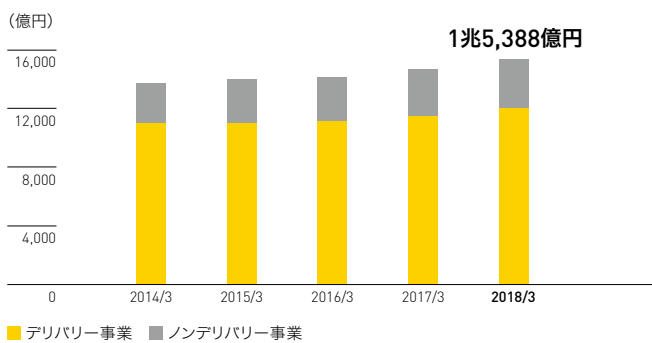
営業収益は、「デリバリー事業の構造改革」を推進したことにより宅急便取扱数量は減少したものの、宅急便単価の上昇に加え、ノンデリバリー事業においてグループ各社の強みを活かした既存サービスの拡充やソリューション営業を積極的に推進したことなどにより、前期比4.9%増の1兆5,388億円となりました。

営業利益は、上期までの宅急便取扱数量の増加や社員の

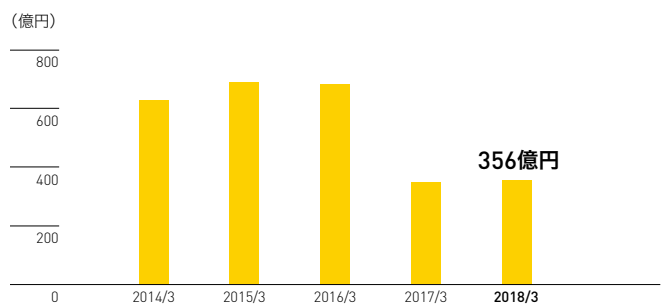
負担軽減に向けた取組みに連動し、委託費等の下払経費や人件費の増加などにより、営業費用全体が増加したものの、営業収益がそれ以上に増加したことから、前期比2.3%増の356億円となりました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比1.0%増の182億円、ROEは前期比0.1ポイント低下し、3.3%となりました。

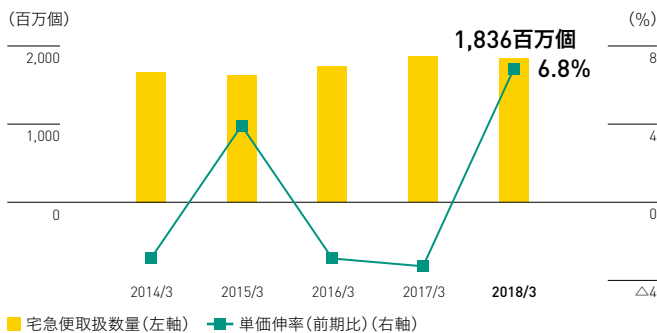
### 営業収益



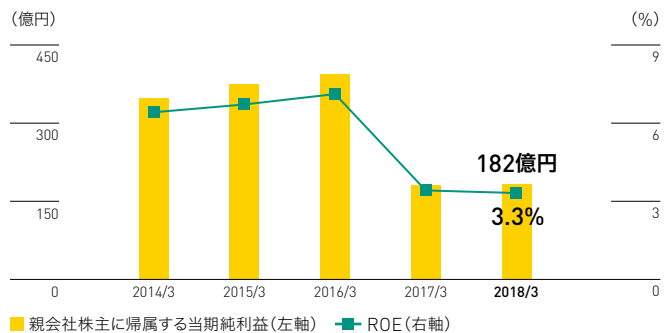
### 営業利益



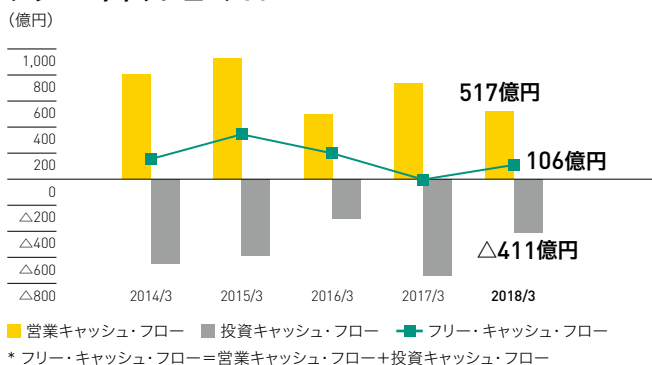
### 宅急便取扱数量/単価伸率(前期比)



### 親会社株主に帰属する当期純利益/ROE



### 営業キャッシュ・フロー/投資キャッシュ・フロー/フリー・キャッシュ・フロー\*



### 自己資本/自己資本比率

